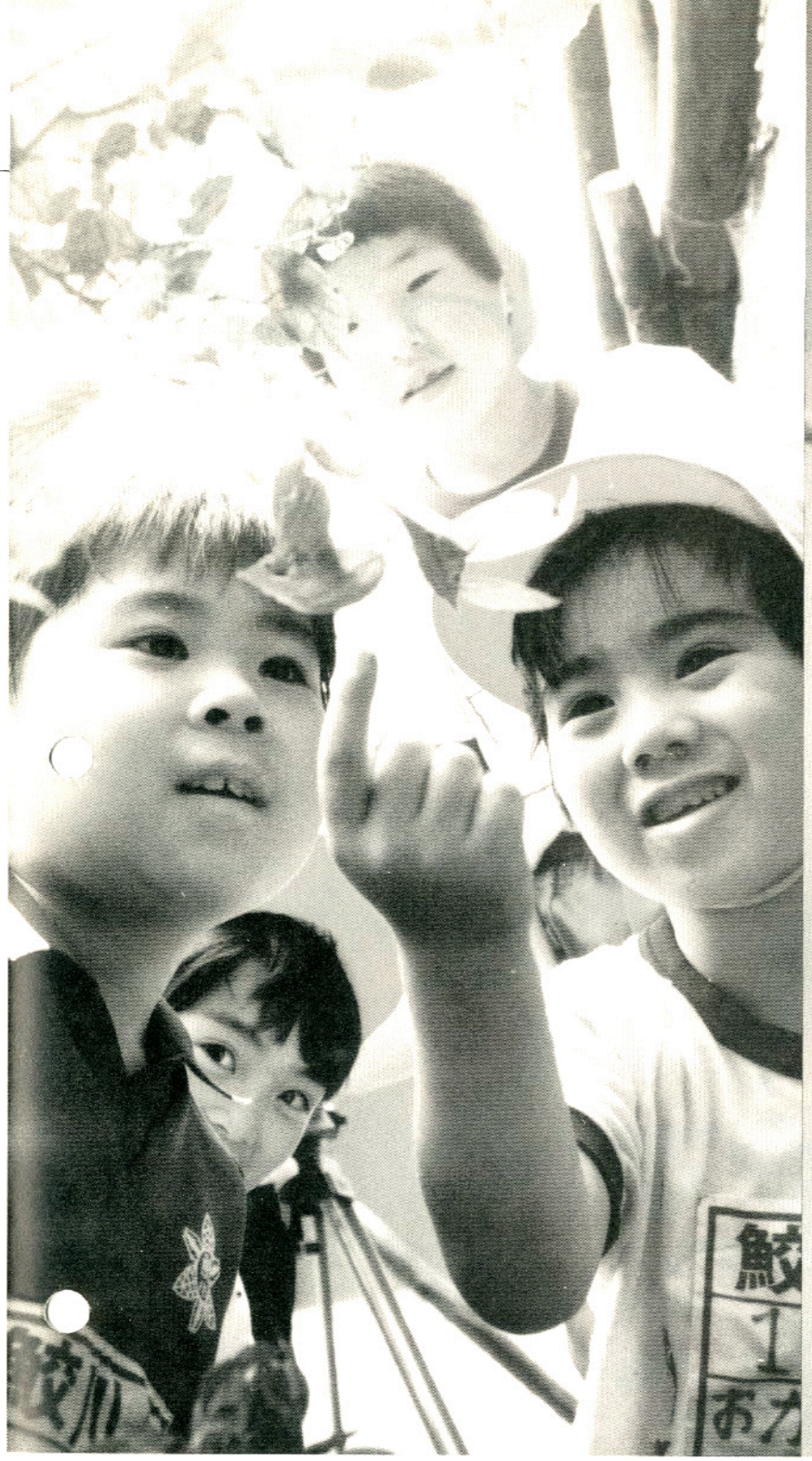
広報

さめうら

1998 JUL.
7
平成10年 No.535







写真左から、オオムラサキの成虫・サナギを観察する子どもたち・エノキの葉を食べるオオムラサキの幼虫

夢のせて

特集 国蝶（ちょう）オオムラサキの里づくり



オオムラサキに

国を代表する美しい蝶として、昭和三十二年に日本昆虫学会で国蝶に指定されたオオムラサキ。しかし、私たち人間の生活が便利になればなるほど自然環境が破壊され、動物や昆虫のすみかや食糧は減り続けています。オオムラサキも例外でなく、幼虫のエサとなるエノキやエゾエノキも、材木にならないという理由で次々と伐採され、その数も減っているといいます。村には、オオムラサキが生息できる環境を守り、里づくりに生かそうと活動している人たちがいます。むらさき色に輝くオオムラサキに夢を託し——。

オオムラサキが飛び交う里に

自然環境の悪化とともに、その数が減少している国蝶オオムラサキ。数年前から、村内の有志がエゾエノキの植樹など活発な活動を行い、「オオムラサキの里づくり」に取り組んでいます。最近、これらの取り組みがマスコミに大きく取り上げられ、「オオムラサキの里・鮫川」を強く印象づけました。ここでは、オオムラサキを守ろうとするさまざまな活動について紹介します。



オオムラサキを放す西野緑の少年団の子どもたち

横浜未来博に二百匹のオオムラサキ

平成元年に神奈川県横浜市で開催された「横浜未来博」に、鮫川小学校からオオムラサキの成虫二百匹が贈られ脚光を浴びました。

当時、鮫川小学校でオオムラサキの飼育・観察活動を行っていました。指導に当たったのは、村内で歯科医院を開業していた古殿町の永沼祥二さん。その取り組みが



オオムラサキの豆知識

日本の国チョウ

オオムラサキの原産地は、中国大陸の奥地といわれています。今では、中国、台湾、朝鮮半島、日本でも、九州から北海道まで広く分布しています。しかし、九州と台湾との間にある南西諸島には、なぜかすんでいません。

今から二百万年前、日本と中国大陸が陸つづきだった氷河時代に、オオムラサキは朝鮮半島を経て、日本にわたってきたと考えられています。

日本全土に見られ、しかも、国を代表する美しい蝶として、昭和三十二年、日本昆虫学会で国チョウに指定されました。しかし、国チョウといっても、



マスコミに取り上げられたことをきっかけに、横浜市から招待を受けたものです。

そのころから、オオムラサキが生息できる環境を守ろうとする動きが広まり始めたのです。

世代を超えた活動で里づくりを展開

戸倉・発地岡地区の全世帯が加入している、地域づくりグループ「戸倉の里づくり寄り合い」（関根乙夫代表）が結成されたのは平成元年。以来、里づくり事業の一環としてオオムラサキの保護活動を進めています。

幼虫のエサとなるエゾエノキの植樹をはじめ、恒例行事となった観察会。子どもからお年寄りまで、世代を超えた活動を展開しています。

その地道な活動が実を結び、普段は林の中に生息するオオムラサキが、三年ほど前から民家の庭先において来るまでになったといいます。地区の人たちは、「オオムラサキが、その美しい姿を見せに来てくれるのだ」と、とてもうれしそうに話します。

観察用飼育舎を設置関心を集める

地域づくりグループ「夢楽会議21」（関根政雄会長）では、四年前からエゾエノキの植樹活動を行っています。会員をはじめ、小学生らが参加し、強滝地内や館山公園、鹿角平などに、現在まで約六百本の苗木を植えました。

その中で、村交流施設「ほっとはうす・さめがわ」前に一昨年植樹したエノキには、今年は数匹のオオムラサキが確認され、確実に活動の効果が表れてきています。

また今年は、多くの人にオオムラサキについて知ってもらおうと、役場向い側の川沿いに観察用飼育舎を設置。四月二十三日に、オオムラサキの幼虫五十匹とゴマダラチョウの幼虫二十匹を放し、観察できるようにしました。

幼虫が成長する様子、幼虫からサナギへ、そしてサナギから成虫別に法律で決められているのではなく、国で保護されているわけでもありません。

オオムラサキの一生

オオムラサキの成虫は、関東以西では六月中旬から下旬に、東北、北海道などの寒い地方では七月に入ってから誕生します。

成虫の活動期間は、約四十日。その間に交尾、産卵を済ませます。

卵からかえった幼虫は、四令になると木からおりて、落ち葉の中で越冬します。北国では、四令に比べて体の小さい三令幼虫も見られることがあります。これは、八月中旬を過ぎて気温が低く、日照時間も短くなっていく時期に産卵された幼虫です。

春になると、また木に登り、二回脱皮して終令に、さらに脱皮してサナギになります。成虫は、年


サナギ


幼虫

へと羽化。美しいオオムラサキの姿を一日見ようと、村内外から多くの見学者が訪れました。

「オオムラサキを通して、子どもたちに夢を与えたい」。会長の関根政雄さんは熱い思いを話します。



戸倉地区で行われている観察会

飼育観察を通して生命の尊さを学ぶ

西野緑の少年団でも、夢楽会議21の支援を受け、四半前からオオムラサキの飼育・観察活動、エノキの植樹活動に取り組んでいます。

昨年は、幼虫を十数匹、エノキの根元に放しましたが、鳥に食べられたり、水死させてしまい、無事に羽化させることができたのは、オス一匹とメス一匹だけ。そのような経験から、子どもたちの目は飼育観察だけでなく、オオムラサキの住める環境づくりへと変わったといいます。

そこで今年は、自分たちでオオムラサキが住みたくなる環境を感じ取りたいという雰囲気が高まり、村内でオオムラサキが生息する強滝地内へ幼虫探しに出かけたり、森林観察探鳥会では、成虫がナラやクヌギの樹液を吸って生き、エノキの葉に卵を産みつけることを学びました。

学校敷地内に設置されている飼育観察園も、昨年までの反省点を生かし、鳥などの外敵から守ることができるよう全体をネットで覆い、子どもたちが毎日交代で観察の記録を付け、成長の様子を発表しています。

「雪がふるオオムラサキは元気かな」。これは昨年度、四年生の児童が詠んだ俳句です。越冬するオオムラサキの幼虫を心配する子どもの優しさがにじみ出ています。



夢楽会議21で設置した観察用飼育舎

「オオムラサキの飼育観察活動を通して、生命の尊さについても学んでほしい」と、山本純校長は話します。

自然の素晴らしさを子どもたちに

富田小学校でも今年、エノキの鉢植えにオオムラサキの幼虫を放し、成長の様子を観察しました。

七月八日、待望のオオムラサキの成虫が羽化。偶然にもこの日、全校児童が羽化の瞬間を見ることができました。子どもたちは、息をのむようにして生命誕生の瞬間を見守り、その美しさに見とれていたといいます。

「子どもたちに、自然の素晴らしさに一回だけ誕生します。

オオムラサキの食樹

オオムラサキの幼虫は、エノキ、エゾエノキの葉を食べて成長します。これらによく似た木に、同じニレ科のケヤキがあります。でも、幼虫はこの葉は食べません。

エノキは関東、関西に多く、エゾエソキは主に東北北部から北海道に成育しています。

エノキやエゾエノキをさがすには、十一月半ばから十二月半ばごろまでが最もいい時期です。幹や枝ぶりはケヤキに似ているので、落ち葉で確かめましょう。

樹液をすうチョウ

チョウの成虫の多くは、花の蜜をすいますが、樹液をすうチョウもいます。オオムラサキやゴマダラチョウなどのタテハチョウの仲間や、ヒメジャノメやヤマキマダラヒカゲなどのジャノメチョウの仲間に、樹液をすうものがいます。

（あかね書房発行、森一彦著・「科学のアルバム　オオムラサキ」から抜粋）





羽化を見守る子どもたち（富田小学校で）

しさを知ってもらうために、環境教育の一環として今後も続けていきたい」と菅野晴雄校長は話しています。



幼虫のエサとなるエノキの植樹

すべての生き物が共存できる環境に

これらの取り組みに共通しているのは、単にオオムラサキを観察するだけのものではなく、自然環境を考え、そして鮫川村の豊かな自然を次代に残そうとする意識のもとに活動していることです。すべての生き物が共存できる環境にしたい…。そんな思いが込められています。

この人に聞く

永沼祥二さん
（古殿町）

雑木林の重要性を考える



ながぬま・しょうじ　古殿町在住・歯科医。蝶の生態に詳しい。現在は、鮫川流域周辺の蝶の生息状況を調査中。

――先生が蝶に興味を持ち始めたのはいつごろからですか。

私が蝶に興味を持ち始めたのは高校生のときです。そのきれいな姿に魅せられ、「もっと蝶について知りたい。もっと調べてみたい」と思ったからです。

――オオムラサキが生息できる自然環境は。

オオムラサキが生息できる環境として、まず、幼虫のエサとなるエノキやエゾエノキが必要です。しかし、この木はあまり価値がないということで、雑木と一緒に切られてしまうのです。

また、オオムラサキが生きていくためには、樹液を出すクヌギやナラなどの古木がはえている雑木林がなければなりません。成虫になってからは、樹液が主食になります。また、腐りかけた果実の汁も好んで吸います。ですから、杉山ばかりではいい環境とはいえません。

――オオムラサキが生息するために、鮫川村の自然環境はどうですか。

鮫川村の場合、雑木林も幾分残っており、オオムラサキが生息するには、まずまずの環境だと思います。雑木林はオオムラサキばかりでなく、あらゆる昆虫や生物にとって必要不可欠なものです。ですから、雑木林の重要性を改めて考える必要があると思います。

羽化の瞬間をカメラがとらえた

夢楽会議21で今年四月に設置した観察用飼育舎で、七月二日、一匹目が羽化しました。羽化の瞬間から羽を広げるまでをカメラで追ってみました。



①サナギが割れ始めてから2～3分。緑の皮を破り頭をのぞかせる。



②約5分が経過。完全に皮から脱け出て、色鮮やかな羽が現れる。



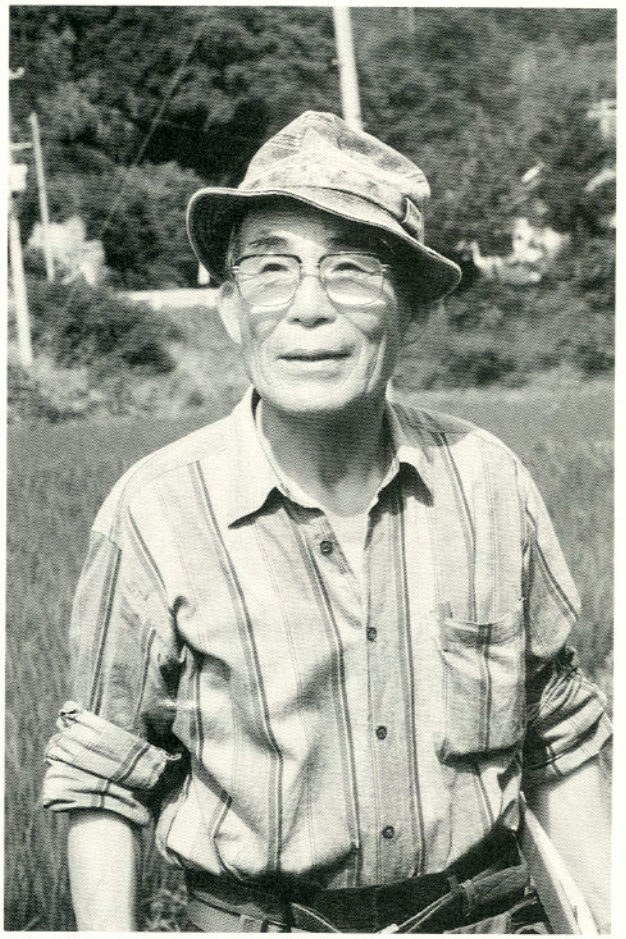
③羽が固まるまでほとんど動かない。この状態で約4時間。



④羽化が始まってから約4時間後、ようやく美しい羽を広げた。

村中にオオムラサキが舞う

オオムラサキの保護活動は、戸倉の里づくり寄り合い、夢楽会議21、西野緑の少年団など、関係者の積極的な活動により、着実にその成果が表れてきています。ここでは、オオムラサキを守ろうと頑張っている方々に話を伺いました。村中にオオムラサキが舞う――。そんな日を夢みて。



次代を担う子どもたちの舞台づくり

関根昭二さん（大字西山字戸倉在住・71歳）

「戸倉の里づくり寄り合い」で用達人（監事）を務める関根昭二さんは、寄り合いが結成するさらに十年ほど前から、古殿町の永沼祥二さんとともにオオムラサキの保護活動を行っていたといいます。以前はたくさんいたというオオムラサキも、幼虫のエサとなるエゾエノキを伐採したため、その数も減少。エゾエノキを植樹することから始め、徐々に数を増やしたといいます。

さらに、寄り合いでは、「昆虫の森」と称し、オオムラサキやカブトムシが生息できる森を整備しました。

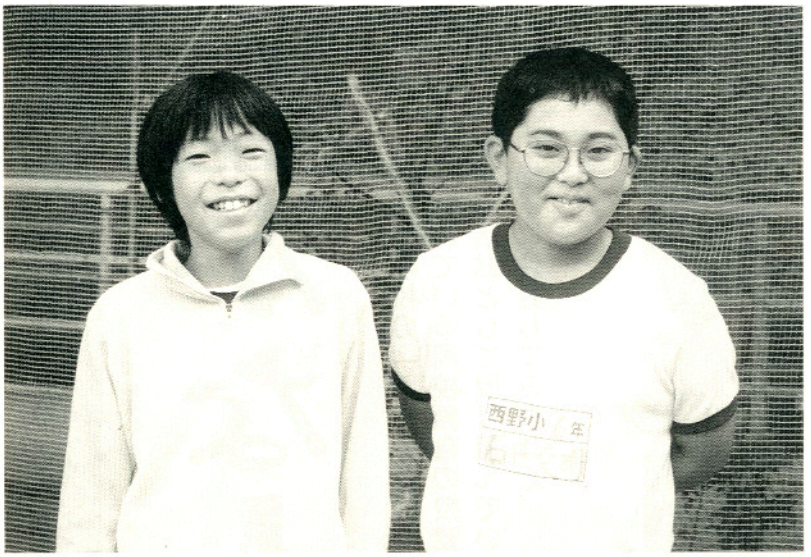
今では、関根さんの自宅の庭先にも、オオムラサキが飛んでくるようになったといいます。

寄り合いでは、オオムラサキの保護活動を、戸倉の里づくり事業の一環として位置付けています。自然とのふれあいを通して、ふるさとの良さを再認識しようとするものです。

「子どもたちが将来、自分が生まれ育った故郷を自慢できるような環境にしたい」と話す関根さん。「私たちの活動は、次代を担う子どもたちの舞台づくりだと思います」と、精力的に活動を続けています。

大人になっても自然を大切にしたい

石井克明くん・北條里美さん



「オオムラサキを初めて見たときは、とっても大きく、きれいなので感激しました」と笑顔で話すのは、西野緑の少年団の石井克明くん（六年・酒垂在住）と北條里美さん（六年・岫長在住）。

緑の少年団では、四年前からオオムラサキの保護活動を行い、エノキの植樹や飼育・観察活動を続けています。

今年四月に入学した一年生たちも、飼育舎に集まり、興味深く成長の様子を観察しているといいます。

森の役割について、「空気をきれいにする」「土砂崩れを防ぐ」「動物のすみかや食糧になる」など、大人顔負けの知識を持つ二人。「オオムラサキを守るために山を残してほしい」と里美さん。「オオムラサキは樹液をすうので、広葉樹を切らないでほしい」と克明くん。自然環境を大切にする心が、緑の少年団の活動で養われているようです。

「これから大人になっても、自然を大切にしたいと思います」と話す二人。「村中でオオムラサキが飛んでいる姿が見られるようになったらいいね」と、夢をふくらませています。

地道な活動できることから少しずつ

斎須信子さん（大字赤坂中野字新宿在住・53歳）



斎須信子さんは、地域づくりグループ「夢楽会議21」発足当時からのメンバーで、エノキの植樹活動などに積極的に参加しています。

「オオムラサキを初めて見たときは、あまりの美しさに感動し、まるで夢の中の出来事のようでした」と笑う斎須さん。オオムラサキについてもっと知りたいと、ただいま勉強中です。

「多くの人が、オオムラサキの美しい姿を見て感動すれば、自然保護の意識も高まるのではと、夢楽会議では観察用飼育舎を設置しました。今後は、オオムラサキの生態や一生をパネルにして、展示するのもいいのでは…」と斎須さんは話します。

自然界の生き物を犠牲にしながら、人間の生活は便利になってきました。「百年後、二百年後の環境を考えたとき、自然を守ることの大切さを、孫ができて一段と強く感じています」と斎須さん。

「大地を踏みしめる感動、生きているという実感を味わいながら、楽しんで活動しています。地道な活動だけれど、できることから少しずつ」と、目を輝かせながら話してくれました。

ルポ

鮫川中学校・ふるさとの時間

豊かな人間性を育む（はぐく）

鮫川中学校の「ふるさとの時間」をご存じですか。十年ほど前から行われている同校独自の授業で、生徒たちの創意工夫と自主性を生かす活動として取り組んでいます。広報さめがわでは、その活動の様子に注目してみました。



お年寄りとゲームを楽しむ生徒たち

自主性を尊重 学年の枠を超えて活動

「ふるさとの時間」は、十項目の活動（別表参照）の中から、生徒一人ひとりの希望により選択できるようになっています。生徒自身の自主性を尊重するためです。

この活動の特徴として、男女や学年の枠を超え、協同で取り組むということがあげられます。「異年齢間での活動で、先輩は後輩の、後輩は先輩の良いところや素晴らしさを学ぶことができるのでは…」と鈴木常武校長は話します。

今年度は、五月二十日に開講式が行われてから、九月まで計九回、延べ十一時間にわたり活動します。最終日の九月二十四日には、活動項目ごとにその成果をまとめ、発表会を行います。



楽しい郷土料理作り

型にはめない授業 いきいきとした表情

今回は、「老人との交流」「伝統料理研究」「補修ペンキ塾」の三つの活動の様



ペンキ塗りもなかなかの腕前



子をのぞいてみました。

まず、「老人との交流」では、村高齢者総合福祉センター「ひだまり荘」を訪ね、デイサービスを利用するお年寄りと交流しました。一緒にお手玉をしたり、ゲームを楽しんだり、話し相手になったりと、それぞれにお年寄りと親ぼくを深めていました。お手玉を教えるおばあちゃんの得意げな顔、生徒たちの表情が、とてもいきいきとしていました。

次に、「伝統料理研究」の活動をのぞいてみました。村に伝わる郷土料理の研究、調理実習などを行っています。今回は、「すいとん」と「じゅうねんのぼたもち」の調理に挑戦していました。食生活が多様化する中、昔からの伝統料理を受け継ごうとするものです。

「補修ペンキ塾」では、体育館の渡り板のペンキ塗りをしていました。夏の日ざしが照りつける中、汗だくになりながら、ハケやローラーを使って丁寧に仕上げていました。

個性が見え隠れ 生徒の行動も意欲的

生徒の一人に「ふるさとの時間は楽しいですか」と尋ねると、「型にはまった授業ではないので、自分の個性を生かせて楽しい」という答えが返ってきました。

活動内容はこのほかに、「手話教室」や「自然・民芸塾」「幼稚園訪問」など七項目あります。それぞれの活動の中で、生徒たちの個性が見え隠れ。意欲的な行動がとても印象的でした。

ふるさとの時間を通して、奉仕の精神や郷土愛、思いやりの心が養われ、豊かな人間性が育まれているようです。

ふるさとの時間活動内容

項　目	内　容
スクールバス・道路の清掃（リサイクル運動）	バス・公共施設の清掃、道路のゴミ拾い、空き缶やペットボトルのリサイクル運動
補修ペンキ塾	自転車小屋、渡り板などのペンキ塗り、体育館ステージの階段の補修・ニス塗り
野鳥観察	野鳥の観察
老人との交流	特養施設訪問、独居老人との文通など
幼稚園訪問	紙芝居や劇の披露など
伝統料理研究	村に伝わる郷土料理の研究（レシピ作り、特産品まとめなど）
自然・民芸塾	民芸品作り、花植えなど
ＪＲＣアルバム作成	トピックアルバムを作成し、学校間で交換する
手話教室	簡単な手話による会話
ふるさと新発見歴史探訪	村の自然・文化・歴史などの調査、資料館での調べ学習

むらのできごと

広報にあなたの写真が載りましたら
さしあげますのでご連絡ください。
（☎49－3111 内線214）

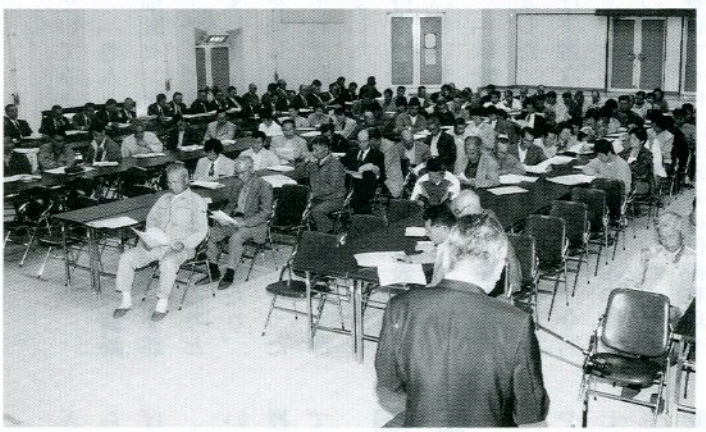
平成10年度納税組長会議

六月十四日、恒例の納税組長会議を山村開発センターで開催しました。

各区長さんや組長さんら約二百人が出席。芳賀村長が、村税完納継続四十一年達成に対し敬意を表したあと、国民年金関係の表彰を行いました。

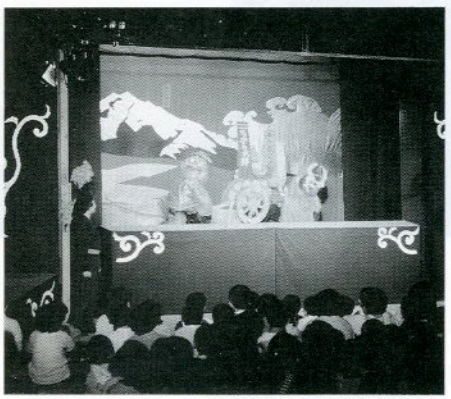
引き続き、藤田村議会議長ら来賓が祝辞を述べたあと、赤坂西野区切払上組長の舟木久さんが議長に選任され、平成十年度予算や村税、各種事業について、村長と各担当課長が説明し、村政に対する理解を求めました。また、村税完納継続四十二年に向けて、納税の誓いを新たにしました。

会議終了後、ひだまり荘など村内各施設を全員で視察。鹿角平観光牧場で昼食会を行い、親ぼくを深めました。



芳賀村長から説明を受ける組長さんら

小学生が人形劇鑑賞



人形劇を楽しんだ芸術鑑賞会

村教育委員会主催の芸術鑑賞会が、6月30日、農業者トレーニングセンターで開かれ、村内の小学生約400人が人形劇を鑑賞しました。

今回は、「ひょっこりひょうたん島」などでおなじみの人形劇団「ひとみ座」が、昔話「ちから太郎」を上演。

巧みな動きの人形劇に、子どもたちの目はくぎ付け。また、ユーモアを交えた舞台に笑い声をあげていました。

ぼく、歯医者さんです。

歯の健康と生活習慣



鮫川歯科診療所
坂井　聡 先生

六月には「歯の衛生週間」があり、各地でさまざまなイベントが行われ、マスコミなどでも、歯に関したことが取り上げられていました。それらを見ていると、国民の健康意識、歯の健康意識がかなりレベルアップしてきていることを感じます。鮫川村の皆さんも、もっともっと健康意識を高めていくことを望みます。

今回は、生活習慣からみたむし歯の予防についてお話します。

歯は、口の中の「酸性度」によって、脱灰（歯が溶けること）と、再石灰化（再生）を繰り返しています。脱灰が多くなり、再石灰化が少なくなるとむし歯になります。

口の中の酸性度は、飲食のたびに強くなり脱灰が進みますが、その後、唾液の作用によって中性に戻り再石灰化し

アイガモで水田除草

無農薬有機米の栽培に取り組んでいる西山成苗組合（高野博光組合長、組合員七人）では六月十二日、水口地内の十七アールの水田で、アイガモの「進水式」を行いました。

組合員四人のほか、鮫川保育所西山分室の子どもたち十四人が参加し、生後三週間ほどのアイガモ二十五羽を手にし、一斉に水田へ放しました。

アイガモは、水田の除草と害虫駆除に役立つほか、泳ぐことにより土壌がかくはんされ、根の張り、有機質の分解がよくなり、稲の成育を促進します。

作業を手伝った西山分室の子どもたちは、「おいしいお米にしてね」などと声をかけながら、元気に泳ぐアイガモを見守っていました。

同組合では、五年前からアイガモによる稲作に取り組んでおり、今年は、組合員の水田に二百羽を放しました。



アイガモを放す子どもたち

社会学級第２回講座
「ちぎり絵」に挑戦

村公民館主催の「社会学級」第２回講座が、６月15日から26日までの期間中、各地区の集落センターで行われました。

今回の講座は、指でちぎった色付きの和紙を、水で溶いたのりで色紙に貼り付けてつくる「ちぎり絵」。村教育委員会学校教育課の須藤課長補佐を講師に迎え、「花菖蒲」の絵に挑戦しました。

学級生らは、作業工程の説明を熱心に聞きながら、丁寧に仕上げていました。



ちぎり絵に挑戦する参加者

県総体少林寺拳法
鮫川支部が三部門制覇

県総体の少林寺拳法が六月二十一日、会津若松市のあいづ総合体育館で行われ、少年団体の部など三部門で福島鮫川支部（小松照義代表）が優勝しました。県内各地から愛好者約四百五十人が出場し、日ごろの練習の成果を披露しました。

鮫川支部の成績は次のとおりです。

〔**優勝**〕▽女子一般有段（単独）＝岡部麻美▽中学生級拳士＝本郷剛臣・岡部貴浩▽少年団体＝福島鮫川支部

〔**準優勝**〕▽女子一般有段＝水野ひろ子・岡部麻美▽少年四級＝木之内健一・鈴木翔▽一般団体＝福島鮫川支部

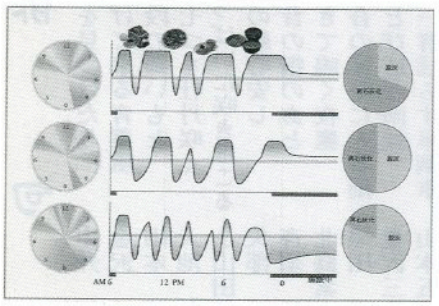


活躍した鮫川支部の皆さん

ようとします。この繰り返しが、規則正しい生活習慣で、けじめ正しく行われていればそれほど問題は生じませんが、飲食回数が増え、不規則で、だらしのない食生活になるほど、口の中の「酸性が強い時間」が長くなり、むし歯になる危険が増えていきます。

こうした生活習慣だと、歯だけの問題にとどまらず、糖尿病や肥満、高血圧などといった「生活習慣病」と大きくかかわってきます。特に、子どものうちから習慣付けされることを恐れます。

現代は、豊かな時代となり自由が増えましたが、その代わりに、自分の健康を強い信念で守らなければならないという不自由を背負うことになったのです。



飲食回数と酸性度の関係

ふれあいひろば





村民リレー ④



山形豊子さん

やまがた・とよこ　大字渡瀬字上耕地在住。村商工会婦人部に所属し、商業の発展に貢献。趣味は読書、スポーツ(体を動かすこと)、ガーデニングなど。41歳。

緑の森や土は母のぬくもり

ふる里は遠きにありて思うもの…。青春時代、大都会に憧れ、夢と希望を胸に我が家を離れたあのころ、都会の生活は心をいやす場所などひとこまもなかった。ビルの谷間の生ぬるい風、灰色の空は人々の無表情な顔を作り出し、いつも淋しげな顔をしていたのが目に映っていた。そんな毎日の生活に、むなしさと心の空洞化を見た。そんなとき、我が家をふと思うと同時に、緑の山々と芝生を敷きつめたような田園風景がやたら恋しかったのを覚えている。

あれから数十年…。美しい空気と水、四季折々に小川のせせらぎや小鳥のさえずりを聞きながら生活することが、いかに人の心を穏やかにするかということを、改めて強く感じている。現代は、大人も子供も日々多忙なためか「心がない」とさえ言われ、誠に悲しく、痛ましく思え、むなしさと無情を感じずにはいられない。

ふと立ち止まって、青い空や新緑の山々を遠く眺めると、遠い昔、野山や田んぼで無邪気に遊んだ自分がそこにいるようで、不思議と心がなごみ、なんとも言いようのない深い憂いが込み上げてくる。そして、ゆっくりと自分を素直にさせてくれる。それはどこか幼少のころ、やさしい母に抱かれたぬくもりのように思えてならない。

次回は、山形さんの紹介で、岡部和彦さん(青生野)の登場です。

俳句

巡る寺南天萩を見つけたり　中井　恒峯
湯煙を吹き上げて来る青葉風　金沢　暁舟
夏川を越す算段の姉いもと　山本　朗史
去年三つ今年七つを牡丹咲く　大池　魚水
白アッツ鉢いっぱいに咲きほこる　小山田清哲
苗市の普段着の顔心安し　矢部　正子
柏餅わいわい昔の指のあと　斉須　信子
宵闇を鋭く裂きて鳴く夜鷹　北條素人坂
コロコロと百合の葉先に光る雨　黒田　寿香
草を刈る手元とび込む雨蛙　金沢三津子
トンツキ花の一群揺らす単輌車　山本五十鈴
あざやかにつりがねの花雨上がる　前田　信子

短歌

明日からは下宿生活する孫に今宵家族が門出を祝う　岡部　シゲ
孫たちの幸せつづきにこの春は祝袋に財布が痩せる　水野　フク
耕せば土の匂いに活気づく春一番とジャガ薯をまく　鈴木　クニ
空しさを覚えながらも見る馬鹿さ政治番組と云うものを　前田　栄美
天明の飢饉に半ば減る村の今は不況に廃屋増える　関根　一好
独り居に男サンダル揃えおく年に幾度か子らの履きつぐ　杉山　磯子
造花のごと端麗なりきサボテンの花は「美人薄命」を負う　森　芳子
短歌会にゆかんとすれば来客も出席促す電話に救わる　本郷　チヨ
山鳥の番いが青葉の中ゆくもわれと目の合い暫し佇む　大平　太平
世も末と耳目に暫し疑わん官僚にして汚職は絶えず　松本　一郎
減反政策気乗りはせねど農業を守ると云えばやむなく従う　蛭田　浩市



仲間たち

吟剣詩舞道常磐神刀流 創風会鮫川支部

代表　田子金夫・会員12人

吟剣詩舞道（剣舞）は、武士の裏芸から伝わった舞で、詩の心を刀剣や扇を使って表現します。「白虎隊」や「川中島」などが代表的です。

鮫川支部は、今年一月に結成され、矢祭町在住の鈴木創風先生の指導のもと、稽古に励んでいます。

「礼に始まり、礼に終わる。礼式を重んじるところが剣舞の魅力」と会長の田子さん。

興味のある方は、稽古をのぞいてみませんか。

▼**とき**…第一・第三月曜日の午後七時▼**ところ**…赤坂西野区民センター▼**問い合わせ**…田子金夫さん（☎49－2371）

満月の明かり頼りに畑打ちし遥かなる日の汗が偲ばゆ　小松セツ子

花咲けば誘う友とのバスの旅佐渡を目指して会話もはずむ　赤坂　朝子

記念品受け取りやすむ三株嶺に互いの水も分けあいており　坂本　雪絵

石楠花の花は淡い色こころにも投げかけてくる思い出一つ　坂本　伊紀

退院をしたる夫は慎むか晩酌なども控え気味なり　松崎　光

早春の畑耕せば鍬さきにほっと息吹ける土湯気の立つ　大竹　華子

五日間孫が抱けぬと笑いつつ夫は海外旅行へと発つ　鈴木イミ子

土工にものしかかり来るこの不況仕事無き日々いつまで続く　北條　平

初サラの休暇帰省の孫息子そのサービスに湯遊ランド行き　芳賀　洋郎

東京鮫川会からこんにちは

のどか



石井幸吉さん

東京都足立区在住
渡瀬字青生野出身

鮫川村を「故郷」と呼び始めてから、三十余年もの年月がアッという間に流れ過ぎました。

また、月日を重ねるにつれ、子どものころの思い出がたくさん浮かんできます。冬の寒さ、山菜採り、魚と遊んだこと、キノコ採り、バスに乗るにも一時間、文化祭には片道二時間もかかる山道を苦にもせずに歩き、現在では「やりなさい」と言われても出来ないことを、ごく自然に、いや当たり前のようにしてきたことが、今では本当になつかしく思い出されます。

そのような環境の中で生まれ育ちながらも、時代の流れか、気ままなせいか、今では歩くこともなく中年にドップリとはまり込んでいる近ごろです。

故郷も今では、高速道路を利用すると三時間足らずで帰れるようになり、大変便利になりました。

先日、友人を連れて帰省したときに、こんな山奥の感想を尋ねたところ、「『のどか』で素晴らしいところです」と、言葉も使い方によっては現実以上の表現をしてくれるものだと感心しました。

東京の生活の中で、楽しい時期も数多くありましたが、最近四、五年は不景気状態が続いて、公私ともに厳しい中で、「明日こそは」と願いを込め「鮫川魂」を発揮し、いつまでも、いつまでも、故郷の青い空を見続けたいものです。

東京鮫川会員の皆さん、あなたも「広報さめがわ」に登場してみませんか。ふるさとへの思い、近況などテーマは自由です。原稿を600字程度にまとめて、総務課広報担当まで写真を添えてお寄せください。

くらしの情報

鮫川村役場　☎49-3111（代表）

村の人口

6月1日現在・（）は前月比

人口	世帯
4,923人（＋2）	1,118戸（＋2）
男	女
2,442人（＋1）	2,481人（＋1）

今月の納付

- 村県民税　1期分
- 固定資産税　2期分
- 国民健康保険税　2期分
- 国民年金保険料　7月分

納期限　7月27日（月）

（納期内に納めましょう
口座振替の方は残高確認を）

こちら窓口

6月1日から30日までの届け出分

●お誕生おめでとう

お誕生はありませんでした。

●おくやみ申し上げます

地区	亡くなられた方	月／日	年齢
西野内	松本　キノ	6／10	85
青生野	長井　スメ	6／29	97

募集

村職員（高校卒程度）採用候補者

鮫川村職員（高校卒程度）採用候補者試験を次により行います。

〔職種・採用予定人員〕　一般事務　一～二名

〔受験資格〕　昭和五十四年四月二日から昭和五十六年四月一日までに生まれた者

〔試験日・場所〕　▼第一次試験（筆記試験）＝平成十年九月二十日（日）・県棚倉合同庁舎（棚倉町）▼第二次試験（小論文、面接）＝別途通知

〔受験手続き〕　申し込み用紙（役場で交付）を総務課総務係に提出してください。

〔受付期間〕　平成十年七月十五日（水）から八月十四日（金）までの執務時間中。土曜・日曜・祝祭日を除く。郵送による申し込みは八月十二日（水）までの消印有効

〔問い合わせ〕　総務課総務係（☎内線212）

消防吏員（高校卒程度）

白河地方広域市町村圏消防本部では、消防吏員（高校卒程度）を次により募集します。

〔募集人員〕　若干名（消防業務に従事する消防吏員）

〔応募資格〕　昭和四十九年四月二日から昭和五十六年四月一日までに生まれた男子（学歴は問いません）

〔試験日・場所〕　▼第一次試験＝平成十年九月二十日（日）・県白河合同庁舎（白河市昭和町）▼第二次試験＝第一次試験合格者に別途通知

〔受付期間〕　平成十年七月十五日（水）～八月十四日（金）。ただし、土曜・日曜・祝祭日を除く。郵送による申し込みは八月十二日（水）までの消印有効

〔問い合わせ〕　白河地方広域市町村圏消防本部総務課人事係（☎0248-22-2155）

独身男女の交流事業参加者

〔主催〕　県南青年交流実行委員会

〔日時〕　八月九日（日）午前八時三十分受付開始

〔場所〕　鹿角平観光牧場（雨天のときは農業者トレーニングセンター）

〔内容〕　交流会、パラグライダー、ネイチャーゲームなど

〔参加費〕　1、000円

〔申し込み期限〕　七月三十一日（金）まで

〔問い合わせ〕　県南青年交流実行委員会事務局・棚倉町役場商工観光課（☎33-2111）または実行委員・堀川直美（48-2008）

監査委員に矢吹一郎さん再任



村監査委員の任期満了により、六月定例村議会の同意を得て、矢吹一郎さん（富田字中沢在住）が再任されました。

矢吹さんは、学識経験を有する委員として、平成二年から監査委員を務められています。

3,401千円～4,608千円（1坪当たり35,000円）**問い合わせ**／企画調整課企画振興係（内線221）

パラグライダー体験教室参加者

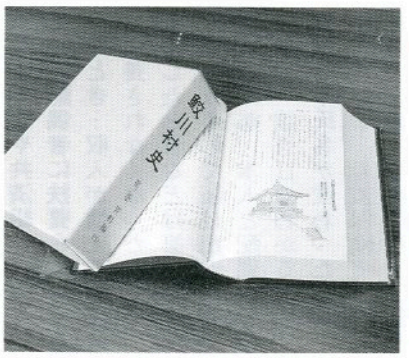
〔主催〕 鮫川村
〔指導・協力〕 鮫川村パラグライダー愛好会「風舞花世」
〔日時〕 八月八日（土）午前九時三十分～午後三時三十分（雨天および強風の場合は中止となります）。
〔場所〕 鹿角平観光牧場
〔対象〕 小学五年生以上
〔参加料〕 無料
〔その他〕 服装は、長袖、長ズボンで、履き慣れた運動靴を着用のこと。
〔問い合わせ〕 企画調整課商工観光係（内線２２１）

宇宙のロマンとの出会い，98

「ペルセウス座流星群」と呼ばれる多くの流れ星を見ることができます。
〔日時〕 八月十二日（水）・十三日（木）午後七時三十分～九時
〔場所〕 鹿角平天文台
〔問い合わせ〕 企画調整課企画振興係（☎内線２２２）

鮫川村史第三巻資料編（下）好評頒布中

鮫川村史第三巻資料編（下）は、現在好評頒布中です。
内容は、近世、近代、現代、民俗となっています。
購入を希望される方は、早めに申し込んでください。
なお、既刊「資料編（上）」の残部もあります。
〔頒布価格〕 ①村内＝四千五百円 ②村外＝五千円（送料含む）
〔申し込み・問い合わせ〕 村史編さん室（歴史民俗資料館内、☎４９－３１０６）



史・資料を探る
村史編さん室

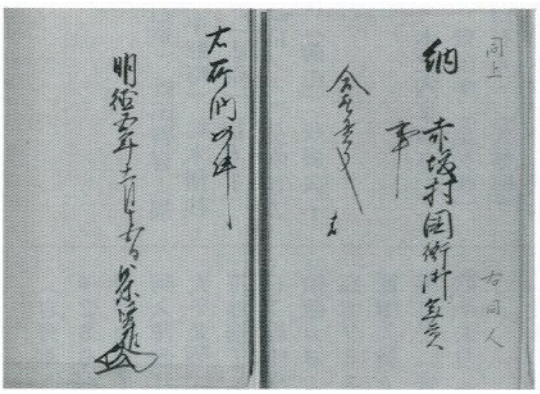
村史資料を読む①

中世「赤坂村」の存在

平凡社版日本歴史地名大系７「福島県の地名」は、「東白川郡鮫川村」の中心「赤坂村」の一項を据えて、「現鮫川村の赤坂中野・赤坂西野・赤坂東野一帯に比定される中世の村。明徳五年（一三九四）四月二五日沙弥賢雄年貢受取状（奥州文書）に『石河庄蒲田内三分壱赤坂村』とみえ国衙年貢一貫文が納められている（以下略）」と記しています。ここに出てくる年貢受取状が、鮫川村史第二巻資料編（上）第三編中世六八（二六七頁）の「沙彌某書」の肩付のある秋田藩家蔵文書「**沙弥賢雄年貢請取状**」に当たります。国衙は政庁、役所のこと、沙弥賢雄はそこの役人、中世組税は年貢と夫役でした。その取立てと増税策が、当時の役人の最重要の任務でありました。

この文書により、私たちは「赤坂村」が蒲田（現鎌田）の端村として存在したことを知ることができます。

今から六百余年以前に書かれた文書、これが記録の上で「赤坂村」を評する初出のものとなっています。赤坂村は、この次点で年貢一貫文を納める村であり、もちろんそれ以前から存在したことは言うまでもありません。



中世支配の国人領主は、その地の名を名乗ったことも考え合わせると、応安五年（一三七二）に奥州探題斯波詮持の蒲田村所領を認めた「**六一斯波詮持施行状**（白川文書）二六〇頁」に、「赤坂賀尾」の名が見え、さらに貞治四年（一三六五）「**五九石川義光譲状**（白川文書）二五八頁」「をい（甥）かのうはう（賀尾房）をやうし（養子）としてちうたい（重代）そうてん（相伝）のてつき（手継）しょうもん（証文）あいそへ（相添）云々」とあります。「かのうはう」は「赤坂賀尾房」のこと、したがって「赤坂」の地名初出をここにさかのぼることも可能となります。

なお、赤坂村は塙町八幡の赤坂（近世北野村の内赤坂村～常世赤坂）との対比で、山野赤坂（鮫川村）と通称されてもきました。いずれにせよ「赤坂」なる地名は、六百三十三年以前すでに存在し、今日もなお生きていることになります。

中野団地宅地分譲中　所在地／大字赤坂中野字宿ノ入　分譲区画／９区画　分譲価格／１区画







あなたの愛をありがとう

五月二十七日（水）、献血車が来村し、次の方々からご協力をいただきました。ありがとうございました。

（五十音順・敬称略）

●成分

石井幸一（酒垂）石井豊（酒垂）遠藤栄子（滝ノ下）金澤広一（大塩）菊地貞子（塙町）木村真一（石川町）斎須寛一（新宿）鈴木敏和（渡瀬・上）鈴木眞理子（大塩）須藤功（新宿）高木頼子（薄ケ久保）生田目京子（辺栗）生田目誠（青生野）芳賀厚子（渡瀬・上）芳賀真一（福原）芳賀正訓（江竜田）芳賀義美（大石草）蛭田啓喜（福原）蛭田みゆき（中野町）船木博枝（反田）舟木正二（広畑）松本丁二（関下）矢吹静子（宿ノ入）矢吹智広（塩倉）山本洋行（前田）我妻久子（落合）

●400mℓ

菊地章夫（仙台市）木之内まゆみ（下）國島敦志（鍬木田）栗田学（巡ケ作）近藤保弘（新宿）白石光一（矢祭町）鈴木誠一（棚倉町）鈴木ツヤ子（伏木田）鈴木初枝（新宿）生田目光枝（小名沢）舟木正博（石ノ花）松崎美佐枝（岩野草）矢吹浩美（宿ノ入）

●200mℓ

青戸カツ子（前沼）青砥ハツ子（塙町）阿久津政江（後折戸）石井哲（酒垂）大平光英（石川町）菊池好彦（棚倉町）笹島浩子（青生野）佐藤二三江（火打石）塩田幸子（広畑）白坂澄江（茅）須藤カヨ（後田中）須藤美由紀（滝）高木フミエ（新宿）大楽憲子（大塩）蛭田久美子（福原）星秀子（蕨平）本多友子（青生野）水野勝夫（宝木）矢吹かおり（岨長）

〔今後の献血車来村予定〕

①平成十年十月二十三日（金）②平成十一年三月十二日（金）

普段あなたが考えていること、村づくりに関する意見、提案など、皆さんの声をお寄せください。（住所・氏名明記、紙上匿名可）

〒963－8401 鮫川村大字赤坂中野字新宿39－5 鮫川村役場「広報さめがわ」行 FAX 49－2651

年金

国民年金の届け出

次のようなときは、十四日以内に国民年金の届け出が必要です。（ ）内は、届け出に必要なもの。

▼二十歳になったとき…二十歳になったとき、厚生年金や共済組合に加入していない人は、国民年金の加入届け出をしてください。（印鑑）

▼就職して厚生年金や共済組合に加入したとき…第一号、第三号被保険者が第二号被保険者になったとき、届け出が必要です。（印鑑、年金手帳、健康保険証）

▼退職したとき…六十歳前に退職して厚生年金や共済組合から脱退したときは、第一号者になるので届け出が必要です。（印鑑、年金手帳、社会保険離脱証明書など）

▼厚生年金や共済組合に加入している配偶者に扶養されるようになったとき…結婚や退職などで、厚生年金や共済組合に加入している配偶者に扶養されるようになったときは、第三号被保険者になるので届け出が必要です。（印鑑、本人と配偶者の年金手帳と健康保険証）

▼厚生年金や共済組合に加入している配偶者に扶養されなくなったとき…収入が増えて配偶者に扶養されなくなったときや、離婚したときなどは第一号被保険者になるので届け出が必要です。（印鑑、本人と配偶者の年金手帳、該当日のわかる書類）

▼住所や氏名が変わったとき…第一号、第三号被保険者は役場窓口に、第二号被保険者は勤務先に届け出が必要です。（印鑑、年金手帳）

〔問い合わせ〕 住民課福祉係（☎内線234）

青少年健全育成県民総ぐるみ運動

青少年健全育成県民総ぐるみ運動が、7月1日から8月31日まで実施されます。この運動は、青少年が心身ともに健康な夏をおくれるよう、関係機関と地域住民が、青少年育成と非行防止のための活動を集中的に実施し、推進するものです。

〔運動目標〕 ①家族みんなで明るい家庭をつくろう。②地域ぐるみで青少年の社会参加を進めよう。③力を合わせて明るい地域社会をつくろう。④声かけ合って子どもを事故から守ろう。⑤みんなの力で青少年の非行をなくそう。⑥みんなの力でいじめをなくそう。

に課税されます。 **納期**／8月（第1期）、11月（第2期） **問い合わせ**／県南地方振興局（☎0248－23－1517）

休日の当番医

月日曜	病・医院名	所在地	電話番号
7/19(日)	杉山胃腸科外科皮膚科	棚倉町	33-7551
	中島医院	塙町	43-0373
	中島病院	石川町	26-3415
7/20(月)	和田医院	棚倉町	33-2012
	車田病院	塙町	43-1019
	富永医院	浅川町	36-2027
7/26(日)	勝田医院	棚倉町	33-3008
	塙厚生病院	塙町	43-1145
	会田病院浅川診療所	浅川町	36-3705
8/2(日)	大木医院	棚倉町	33-2424
	石川医院	塙町	43-0003
	大野病院	石川町	26-1181
8/9(日)	東白川中央病院	棚倉町	33-3263
	木村医院	矢祭町	46-3528
	原外科医院	石川町	26-1423
8/16(日)	藤田医院	棚倉町	33-2013
	金沢医院	矢祭町	46-2312
	中島病院	石川町	26-3415
8/23(日)	あらまちクリニック	棚倉町	33-8018
	東舘診療所	矢祭町	46-3165
	大野病院	石川町	26-1181

ごみ収集日

収集場所	種別	7月	8月
江竜田～中野町～福原～鍬木田～広畑～新宿～道少田～大塩コース	可燃物	2.6.9.13.16 23.27.30	3.6.10.13.17 20.24.27.31
	不燃物	10.24	7.21
さぎり荘～村営住宅赤坂中野団地コース	可燃物	2.6.9.13.16 23.27.30	3.6.10.13.17 20.24.27.31
	不燃物	8.12	5.19
鮫川分校（不燃物のみ）鮫川中学校コース	可燃物	2.6.9.13.16 23.27.30	3.6.10.13.17 20.24.27.31
	不燃物	9.23	6.20
関下～越虫～青生野小学校～世々麦～葉貫～蕨ノ草～中沢～関口コース	可燃物	1.8.15.22.29	5.12.19.26
	不燃物	8.12	5.19
真坂～押目～酒垂～塚本～荻ノ沢～折戸～水口～官沢コース	可燃物	1.8.15.22.29	5.12.19.26
	不燃物	9.23	6.20
官代～遠ケ竜～大石草～大根屋敷～内ケ竜コース	可燃物	1.8.15.22.29	5.12.19.26
	不燃物	10.24	7.21
石井草～大久保～鬼越～赤柴～沼野沢～岩野草～薄ケ久保コース	可燃物	1.8.15.22.29	5.12.19.26
	不燃物	17	28

相談

心配ごと相談

〔日時〕八月二十日（木）午前十時～午後三時（午後一時からは、宮本多可夫弁護士が相談を受けます）
〔場所〕山村開発センター
〔問い合わせ〕村社会福祉協議会（☎49-3600）

交通事故巡回相談

〔日時・場所〕①七月二十八日（火）・石川町役場 ②八月七日（金）・棚倉町役場 いずれも午前十時～午後三時

家出人・行方不明者を捜す相談所

〔期間・場所〕八月一日（土）～三十一日（月）・棚倉警察署
〔特別巡回相談所〕八月七日（金）午前九時～午後四時・郡山警察署駅前警備派出所

身体障害者巡回相談

〔日時・場所〕①七月二十八日（火）午後一時～三時三十分・県南保健所棚倉支所 ②八月十七日（月）午後一時～三時三十分・古殿町健康管理センター
〔対象〕肢体不自由者
〔その他〕相談希望者は、住民課福祉係（☎内線234）に事前連絡が必要。当日は、身体障害者手帳を持参ください。

スポーツ

トレセンプールをご利用ください

〔利用時間〕①午前九時四十分～十一時三十分②午後一時～二時五十分③午後三時～四時五十分④午後七時～八時五十分（夜間）
〔利用料金〕①一般＝百円②高校生＝五十円③小中学生＝二十円④幼児＝無料（ただし保護者同伴、保護者は有料、保護者一人につき幼児二人まで）
〔定休日〕毎週月曜日、祝祭日の翌日
〔問い合わせ〕農業者トレーニングセンター（☎49-3295）

宝くじの収益金は、私たちの街の公共事業に役立てられています。
市町村振興 第383回全国自治宝くじ サマージャンボ宝くじ
1等・前後賞合わせて 1億5,000万円
1等6,000万円×120本 前後賞各4,500万円
ラッキーレジャー賞 50万円×4,000本
発売期間 7月21日(火)～8月7日(金)
（発売総額1,200億円・40ユニットの場合）

1等	6,000万円	120本
1等の前後賞	4,500万円	240本
1等の組違い賞	10万円	11,880本
2等	1,000万円	120本
3等	100万円	2,000本
4等	5万円	80,000本
5等	1万円	400,000本
6等	3,000円	4,000,000本
7等	300円	40,000,000本
ラッキーレジャー賞	50万円	4,000本

抽せん日：8月18日(火)
サマージャンボ宝くじは通信販売でもお求めできます。どうぞご利用下さい。
1枚300円
お問い合わせ先 tel.03-3596-3771 全国都道府県 宝くじ

寄付

（敬称略）
▼社会福祉事業のために（金員）＝松本定吉（西野内）長井久男（青生野）▼ひだまり荘・さぎり荘に（タオル四十五本）＝中野長生会▼広報紙郵送料として＝鈴木英二（神奈川県大和市・新宿出身）

個人事業税 個人事業税は、県内に事務所・事業所を設けて販売業や製造業など一定の事業を営んでいる

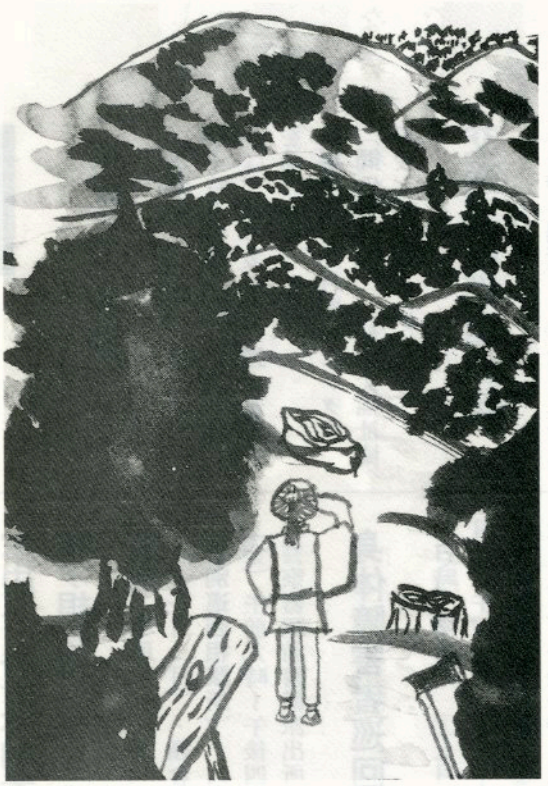
平成10年7月号 No.535
発行・編集／鮫川村役場総務課

〒963-8401 福島県東白川郡鮫川村大字赤坂中野字新宿39-5
TEL (0247)49-3111 FAX (0247)49-2651

印刷／佐藤印刷所

ふるさとのむかし話 ④

朝日山の炭やき太郎



むかしむかし、力の大変強い、そして、目の非常によくきく、炭やき太郎という若者が朝日山のふもとに住んでいました。太郎は、遠くの山まで、そのよくきく目で炭にする良い木をさがし、その力でどんな所からも木を切り出し、運び出してしまうので、できる炭は良いものばかりで、炭やき名人と仲間から言われていました。

その日も太郎は朝日山の頂上から遠くの山を見下ろしていました。そして、普段は柔和な顔つきが、村の方に目をやるとけわしい形相になり、そばにあった太い大きな丸太をあわててかつぐと、はやてのように山道をかけおり、途中であった村人が声をかけても「おらみだんだ。そごさ行がねっけ」と、ただならない表情であっという間に走り去ってしまいました。

そのころ、村では一人の若い娘が縄をかけられ、庄屋に連れ去られようとしていました。そして、村人は「親父だけでなく、娘までせでっちまなんて、むごいごとするもんだ」「年貢納めねがらって親父せでって、今度は娘まで縄かげでせでぐなんて」と、それを見ながらヒソヒソと話を交わしていました。すると、山の方からあの丸太をかつぎ、けわしい形相をして庄屋の屋敷に向かう太郎の姿が見えました。村人はその表情に驚き、太郎の後をついて行きました。

そして、庄屋の屋敷につくと、丸太を両手で抱え込み、門に向かって「ドーン」とつくと、門はぶち破られ、広い庭に広げられた真っ白な米の海が見えました。「おら見だんだ。まったく悪い庄屋だ。新しい米は入りぎんにほど蔵につまってんのに。そして、古い米に虫がつかねえようにって、こうだに虫干ししてんのに」と太郎が言うと、村人はいっせいに怒りの声をあげ、娘の縄を解き、奥で米つきの仕事をさせられていた娘の親父を助けだし、悪い庄屋をこらしめました。

そして、村はまた平和になり、村人に「あんたの目玉は本当にすごいもんだ。誰が、いづ、どごで悪いごとしても、いづでもわがるように、いづでも代わりににらんでくんちぇ」と頼まれ、太郎は息をひきとるまで、朝日山の頂上に毎日出かけては、村の平和を見守ったそうです。

あとがき

七月九日付け、福島民友新聞の「サロン」欄に、「羽化立ち会い父親の気分に」という見出しで、私の記事が掲載されていました。オオムラサキの羽化の瞬間を撮影したいと思い、毎日飼育舎に通い続け、七月二日の朝、ササギに変化が現れたため、午前中から張り込んでいました。そして午後二時、待ちに待ったその瞬間が……。まだ独身の私ですが、少し父親になった気分を味わうことができました。（舟木）



今月の表紙

大空へ飛び立て

西野小学校に設置されている国蝶オオムラサキの飼育舎のササギが次々と羽化しました。色鮮やかな羽を広げたオオムラサキを見守る子どもたち。このあと、大空へと放しました。